

外部専門員ニュース 第3号

令和6年7月5日
都立清瀬特別支援学校長
稗田 知子

～たすく株式会社の綱川先生より、スケジュールの活用について御紹介いただきます～



たすくとは？

私たちがたすく(TASUC: Total Approach Support Union for Challenged children and their families)は、発達に凸凹のある子どもたちに関わる専門家集団です。国内外を問わず特別支援教育に関する知見を集積したTASUCメソッドを元に、療育教室、早期発達支援、放課後等デイサービス、就労移行支援など、幼少期から青年期そしてその後まで一貫して継続した療育・教育・支援の環境づくりをおこなっています。

アセスメントを通して、一人一人に応じた対応を

児童・生徒の目標設定をするには、まず理解することが先です。

私たちはTASUCメソッドを元に、先生方が児童・生徒を理解し、明日からどのようなことに取り組むか目標設定をすることをサポートしています。

スケジュールの活用～見通しを持って安心して活動に取り組もう～

今回は、「スケジュールの活用」ということで子どもたちに見通しを持たせるための工夫についてお話しします。

彼らが行動的にうまくいっていない時、特に行動の切り替わりがうまくいかない時は、次の行動の見通しがもてずに不安になっていることが多いです。見通しというのは、いつ、どこで、何をするか、誰とするのか、どのようにするのか、などの情報です。これがわかると彼らは安心して活動に取り組むことができますが、声の指示などの聴覚情報や文脈などからこの情報を察することに困難がありますので、見通しを持てなくなっていることが多く、その結果不安となり行動の問題につながるというパターンが多いです。

したがって、子どもたちの様子がどこかおかしいな？と感じたらまず、見通しが持てているかな？という点について疑問を持ってみると良いです。時間割などの情報で見通しを示しているけど。。。という場合には、その情報が本人にとって認知しづらいものとなっている可能性があります。例えば、視覚的な情報処理の方が得意なお子さんに文字情報だけで見通しを伝えているとうまく情報が取れていない可能性が出てきます。

私たちは特別支援学校のお子さんたちには、写真のような視覚的なスケジュールが必須であると考えています。このような視覚的なスケジュールで一つずつやることを確認し、終わったら絵カードをはがすというやり方を学んでいきます。一つの活動が終わったら絵カードをはがすことで、次の活動の確認ができて活動の切り替わりもスムーズにいきます。初めはこのような視覚的なスケジュールを使い見通しを持ちながら学習していき、将来的には手帳などで予定を管理していく習慣を身につけます。

また、このようなスケジュールを使ってもうまくいかない場合は、左から右に順番に注目していくことを学ばなければいけません。左から右が順番ということ認識しなければ、ただの絵カードの羅列になってしまうからです。その場合は、例えばピースの数が少ないパズルを左から右に順番に並べるなど、色々な課題を行うときに左から右の順番を意識して取り組むことが重要になります。

ご家庭であれば、家に帰ってきてから行うことや、寝る準備、朝の支度など毎日やるようなルーティンの部分から導入するとスムーズかと思います。スケジュールを使うことに慣れてきたら、お出かけする時など移動を伴うようなスケジュールも扱えるようになると生活の幅が広がっていきます。清瀬特別支援学校では、小学校低学年を中心にこのスケジュールに取り組んでいる教室が多いのでぜひ教室での様子も聞いてみてください。

